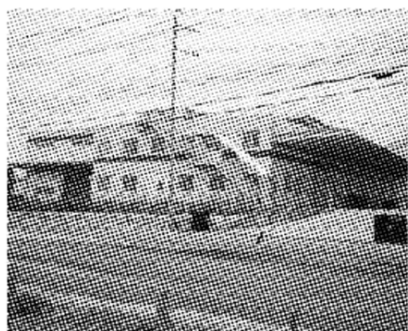


車部品熱処理で新棟

東研サーモテック 三重に連続ガス軟炉



東研サーモテック（大阪府東住吉区、川崎修社長、06・6714・2425）は三重工場（三

重県菟野町）に熱処理の第4工場棟（写真）を新設し、第2工場棟も増強した。三重工場で手がける自動車部品の処理能力を約3割向上した。寝屋川工場（大阪府寝屋川市）で担当していた建設機械向け部品の熱処理を三重工場に移し、能力を約2割高めた。総投資額は約8億円。中部・東海地区

で獲得した新規受注などに対応する。

第4工場棟の床面積は約3000平方メートル。連続式の連続ガス軟炉を導入。トルクコンバーターの熱処理コストを従来比1～2割低減する。シートベルト金具の熱処理向けに、他社従来品に比べて高強度に仕上げられるオーステンパー炉も設置した。7月に自動変速機の歯車を熱処理する連続

浸炭炉も導入する計画。第2工場棟には駆動系

部品のピニオンシャフトの熱処理コストを従来比約2～3割低減できるピット型四三酸化ガス窒化炉を導入した。表面への四三酸化鉄の生成と窒化の複合処理で、従来手法の浸炭後無電解ニッケル処理と同等の耐食性、耐

摩耗性を確保し、顧客の低コスト化要求に応える。増産対応に迫られていた建機の足回り部品向け熱処理設備も整えた。同社は熱処理専門メーカー大手で、関西を中心に事業を展開。ただ、需要が伸びているダイヤモ

ンド・ライク・カーボン（DLC）コーティング事業で、中部・東海地区の自動車部品メーカーなどの取引が拡大しており、品質保証や生産管理体制が評価され、熱処理事業での新規受注などにつながった。

日刊工業新聞
2011年(平成23年)2月23日付

日刊工業新聞社からの転載許可に基づいて掲載
本記事への著作権は日刊工業新聞社に帰属します
記事への改編、他への転載は一切禁止致します